



ライオンズクラブ国際協会330-A地区

キャビネット事務局 〒169-0074 東京都新宿区北新宿1-36-6 ダイナシティ西新宿1F
TEL. 03-5330-3330 FAX. 03-5330-3370 E-mail: cab@lions330-a.org URL: http://330a.jp

2018年2月1日

ライオンズクラブ国際協会330-A地区
クラブ会長・幹事 各位

(再送) 2018年5月22日

《再送》

この度、本件につきまして受付期間を延長することになりました。
ご協力を頂けます場合は、6月20日(水)迄に下記口座まで
お振込みをお願い申し上げます。

330-A地区
ガバナー 細川 孝雄

スペシャルオリンピックス日本 (SON)

第7回夏期ナショナルゲーム・愛知開催に対してのご寄付のお願い

拝啓 厳寒の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃はキャビネット運営にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、一般社団法人日本ライオンズ第4回理事会(開催2017年12月7日)で承認されました「第7回夏期ナショナルゲーム・愛知開催に対してのご寄付のお願い」別添をお送り申し上げます。

本件につきましては、2018年1月29日開催の臨時第1回キャビネット会議において各クラブへご案内することを報告させていただきました。

つきましては、当地区の受付口座を用意いたしましたので、内容をご確認いただき、各クラブ 一口 5,000円のご寄付を賜りますよう伏してお願い申し上げます。
ご寄付いただいた方にはオリジナルピンバッチ(スペシャルオリンピックス日本とライオンズクラブのロゴ入り)を贈呈させていただきます。

各クラブよりお預かりいたしました寄付金は、キャビネットにおいて取り纏めの上、3月末までに334-A地区(愛知)の指定口座へ送金いたしますので、ご多用のところ誠に恐縮に存じますが、~~3月28日(水)迄~~に下記口座までお振込みをお願い申し上げます。

6月20日(水)

敬具

記

振込先: みずほ銀行 新宿西口支店(店番353)
口座番号: 普通預金「4917413」
口座名義: ライオンズクラブ国際協会330-A地区
スペシャルオリンピックス日本 会計 荻野桂一

※ 上記の口座へクラブ名でお振込みください

以上



一般社団法人日本ライオンズ 〒104-0028 東京都中央区八重洲 2-6-15 JOTO ビル 9階
Phone: (03)6262-1263 Fax (03)3241-4388 E-mail: jlo@jade.plala.or.jp

別紙

2017年12月21日

各地区ガバナー様
各ライオンズクラブ会長様

一般社団法人日本ライオンズ
理事長 山田 正昭

スペシャルオリンピックス日本 (SON)

第7回夏期ナショナルゲーム・愛知開催に対してのご寄付のお願い

拝啓 寒冷の候 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素はライオニズムの高揚にご尽力賜り心より感謝申し上げます。

さて、既にご高承の通り、スペシャルオリンピックス日本と日本ライオンズクラブが本年6月にパートナーシップを締結し、ライオンズがスペシャルオリンピックス日本の活動を全面的に支援することになりました。

つきましては、2018年9月22日～24日にスペシャルオリンピックス日本第7回夏季ナショナルゲーム・愛知が開催されますので、同大会を成功に導くために皆さまのご協力と支援が必要とされています。

特に、全国各地で行われるユニファイドリレー・トーチラン(聖火リレー)は、ユニフォーム・Tシャツ(ライオンズのロゴ入り)、のぼり旗等の作成が予定とされています。

過日開催されました第4回理事会において慎重審議した結果、ご承認頂きましたので、ライオンズとして、各クラブ 一口5,000円のご寄付を賜りますよう伏してお願い申し上げます。

なお、各地区においてお取り纏め頂き、~~2018年3月末日までに~~下記口座宛てお振込をお願い申し上げます。

又、ご寄付いただいた方にはオリジナルピンバッジ(スペシャルオリンピックス日本とライオンズクラブのロゴ入り)を贈呈させていただきます。 敬具

キャビネットで取り纏めて一括送金いたしますので、
直接下記の口座へ送金されませんようご注意ください。

☆振込先口座： みずほ銀行 名古屋駅前支店 (なごやえきまえしてん)

普通預金口座 1474589

SO 334-A地区 野村 善弘

(SO 334-Aチク ノムラ ヨシヒロ)

☆備考： お手数ですが、振込後には334-A地区キャビネット事務局まで
FAX (052-589-0150) をお願いします。

以上

CC: 各協議会議長

スペシャルオリンピックス (SON) の歴史

1968年、故ケネディ大統領の妹“ユニス・シュライバー”は、当時スポーツを楽しむ機会が少なかった知的障害のある人たちにスポーツを通じ社会参加を応援する「スペシャルオリンピックス」を設立。

“ユニス”は活動を通じ、知的障害のある人たちの可能性を実現し、彼らに対する社会の否定的な固定観念や差別的態度を変えるため、その生涯を捧げました。彼女が生涯貫いた信念は、40年たった今も確実に社会を変える動きとして世界に広がっています。

※スペシャルオリンピックス（英語：Special Olympics、略称：SO）

スペシャルオリンピックス創設の歩み

1962年

ケネディ家とケネディ財団は、スポーツの治療的効果に長い間関心を持っていましたが、ユニス・ケネディ・シュライバーは、知的障害のある子供達を集めて、この年、アメリカ、メリーランド州でデイキャンプを行いました。

このデイキャンプが、スペシャルオリンピックスの始まりです。彼女の姉ローズマリーには、知的障害がありました。

1963年～1968年

メリーランド州で実施したデイキャンプは、知的障害のある子供達が様々なレクリエーション的な活動に参加する事ができ、また効果を得ることができるという事実を証明するのに十分な成功を収めました。その結果ケネディ財団は、国中に同様のプログラムを設立するために助成することを決断し、アメリカとカナダで80ヶ所以上もの公的機関、私設機関に知的障害のある人々のためのデイキャンプを、それぞれの地域で設立するための助成を行いました。

1968年

7月20日、イリノイ州シカゴのソルジャー競技場で「第1回スペシャルオリンピックス国際大会」が開催され、アメリカ国内26州とカナダから1,000人以上のアスリートが参加しました。12月、非営利組織「スペシャルオリンピックス」が、国際本部としてワシントンD.C.に誕生しました。

1971年

12月、アメリカオリンピック委員会より「オリンピック」の名称使用が正式に認められました。

1977年

2月、「第1回冬季国際大会（コロラド州スチームボートスプリングス500名）」が開催。

1988年

2月、国際オリンピック委員会（IOC）とスペシャルオリンピックス国際本部は、「オリンピック」の名称使用や相互の活動を認め合う議定書を交わしました。

スペシャルオリンピックス国内活動の歴史

1991年

第8回夏季世界大会がアメリカ・ミネソタ州で開催され、熊本から体操のアスリートとボランティアコーチが体操競技・床運動に出場し、銀メダルに輝きました。そのニュースが熊本の地元紙に掲載され、多くの反響を呼び、新たなスペシャルオリンピックス活動の輪が広がりました。

1992年

10月、スペシャルオリンピックス説明会が熊本市で開催されました。

1993年

1月、ボランティアコーチ研修会を行い、その後、熊本県内でスポーツプログラム活動が始まり、3月、地区組織「スペシャルオリンピックス熊本」が設立され、同月、国際本部のはからいで、第5回冬季世界大会（オーストリア・ザルツブルグ）に熊本からアスリート2名、コーチ3名が参加しました。

1994年

スペシャルオリンピックス日本設立準備委員会が発足し活動を始めました。

10月、地区組織「スペシャルオリンピックス東京」が設立された後、

11月27日、国内本部組織「スペシャルオリンピックス日本」が、国際本部より認証を受け熊本市で発足しました。（会長：細川佳代子）。

1995年

3月、第1回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム（熊本）を開催し、7月、第9回夏季世界大会（コネチカット州）に、日本選手団30名を派遣しました。これ以降、世界大会毎に日本選手団を派遣しています。

1996年

2月に第1回冬季ナショナルゲーム（アルペンスキー競技）を宮城で、5月同大会（スケート競技）を福岡で開催しました。

1998年

8月、第2回夏季ナショナルゲーム神奈川大会を開催し、これ以降、夏季冬季のナショナルゲームは、2年ごと交互に開催しています。

2001年

5月、内閣府より特定非営利活動法人として認証を受け、特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本を設立しました。（理事長：細川佳代子）

2002年

8月に開催した第3回夏季ナショナルゲーム・東京では、1,000人を超えるアスリートが参加し、3,000人以上のボランティアが大会を支えてくれました。

2004年

2月、第3回冬季ナショナルゲーム・長野を2005年冬季世界大会のプレ大会として開催し、9月、2005年冬季世界大会「500万人トーチラン」の採火式・分火式が行なわれ、トーチランが全国でスタートしました。

2005年

2月、第8回冬季世界大会が長野で開催され、84の国と地域から1,829人のアスリートが参加、日本選手団も150名が参加しました。

2006年

7月、認定NPO法人として国税庁より認定を受けました。（理事長：三井嬉子）

2007年

12月、スペシャルオリンピックス日本は、主たる事務所を熊本市から東京都に移転したため、NPO法人の認証先が東京都に変わりました。

2008年

4月、有森裕子が理事長に就任しました。

2009年

47都道府県全てにスペシャルオリンピック活動が広がりました。

2011年

10月1日には、公益財団法人への移行を行うため臨時総会で一般財団法人スペシャルオリンピックス日本の設立を決議し、10月5日一般財団法人スペシャルオリンピックス日本を登記設立しました。

2012年

3月13日「一般財団法人スペシャルオリンピックス日本」は内閣総理大臣より公益認定を受け、3月31日通常総会において特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本の解散と公益財団法人への事業移行及び残余財産寄贈の決議を行いました。

4月1日より公益財団法人スペシャルオリンピックス日本として、事業を開始しました。

2014年

スペシャルオリンピックス日本 設立20周年を迎えました。

2016年

12月、ユニファイドスポーツ単一での全国大会（2016年第1回全国ユニファイドサッカー大会）を初めて開催しました。

公益法人 スペシャルオリンピックス日本の役員等一覧 (2017年4月時点)

名誉会長 細川 佳代子 (スペシャルオリンピックス日本 元理事長)
会長 三井 嬉子 (スペシャルオリンピックス日本 前理事長)
顧問 王 貞治 (福岡ソフトバンクホークス株式会社 取締役会長)
於久田 太郎 (ソニー生命保険株式会社 相談役)
近藤 正樹 (日本 KFC ホールディングス株式会社 代表取締役社長)
竹田 恆和 (公益財団法人日本オリンピック委員会 会長)
中里 則彦 (公益社団法人日本ボウリング場協会 会長)
山下 泰裕 (東海大学 副学長)
参与 大和田 誠 (サイエント株式会社 顧問)
白木 福次郎 (NPO 法人ほっぷの森 理事長)
評議員 市原 則之 (公益財団法人日本ハンドボール協会 副会長)
漆 紫穂子 (品川女子学院 理事長・校長)
加藤 一隆 (一般社団法人日本フードサービス協会 理事・顧問)
剣持 睦子 (スペシャルオリンピックス日本・神奈川 相談役)
嶋岡 正充 (ソニー生命保険株式会社 代表取締役 執行役員副社長)
ヨーコ ゼッターランド (スポーツキャスター/女子バレーボール オリンピック メダリスト[米国代表])
田中 明 (株式会社ファーストリテイリング 常勤監査役)
松尾 新吾 (スペシャルオリンピックス日本・福岡 理事長)
松原 謙二 (公益社団法人 日本医師会 副会長)
理事長 有森 裕子 (元プロマラソン選手)
副理事長 新宅 正明 (虎ノ門企画合同会社 代表社員)
常務理事 藤本 和延 (公益財団法人笹川スポーツ財団 前常務理事)
理事 阿部 雅司 (名寄市 特別参与 スポーツ振興アドバイザー)
伊藤 英夫 (文京学院大学 教授)
岩沼 聡一郎 (帝京科学大学 講師)
加藤 一幸 (Vision Support 代表)
川上 隆史 (公益財団法人日本スケート連盟 理事)
小島 一美 (新生フィナンシャル株式会社 シニア・アドバイザー)
坂本 哲男 (あおぞら銀行 元常務執行役員)
三宮 秀介 (スペシャルオリンピックス日本・兵庫 理事)
林 裕子 (スペシャルオリンピックス日本・山口 理事/山口大学大学院技術経営研究科 特命教授)
平野 ユキ子 (スペシャルオリンピックス日本・岩手 理事長)
福井 琢 (柏木総合法律事務所 代表弁護士/慶應義塾大学大学院法務研究科教授)
松川 英一郎 (スペシャルオリンピックス日本・神奈川 アスリート)
山中 誠 (前特命全権大使 ポーランド共和国駐劄)
山本 晃宏 (公益財団法人日本バスケットボール協会 理事/事務総長補佐)
横浜 信一 (日本電信電話株式会社 特別参与)
吉井 泉 (スペシャルオリンピックス日本・和歌山 顧問)
監事 岡 伸浩 (岡綜合法律事務所 代表弁護士/慶應義塾大学大学院法務研究科教授)
中野 昌宣 (大光監査法人 代表社員 公認会計士)